

事業名 「冒険遊び場」にいのみ池プレーパーク

≪拠点≫緑児童館

対 象 乳幼児～大人

事業内容

「自分の責任で自由に遊ぶ」「ケガと弁当は自分持ち」をモットーとした、プログラムのない自由な遊び場です。にいのみ池プレーパークでは幼稚園帰りや散歩ついでに乳幼児から、学校帰りの小・中・高生、大人までの幅広い年齢層が集まってのんびりと過ごしています。

子どもは本来遊びながら自ら育つ力を持っています。その為には自分の発想を実現したり、「やってみたい」と思ったことをできる空間が不可欠です。そこでプレーパークでは「何も足さない、何も引かない」時間を大切にします。できるだけ禁止事項をなくし、子どもが自由に過ごし、遊びながら育っていけるような環境づくりを整えています。

事業のポイント

- ・「年齢、性別、人種」問わず誰でも来られる場所
- ・「プログラムのない」空間
- ・「やってみたい」ができる環境
- ・「ただそこにいるだけ」が認められる場所
- ・大人からの「こんな力を身につけてほしい」なんて願いのナナメ上に行く、子ども自身の持つエネルギーを持ち続ける力を育む

こんな力を身につけてほしい：担当者の願い

- ・ありのままの自分を受けとめる力（自己肯定感）
- ・柔軟に考え行動する力
- ・多様性を尊重する力

エピソード

子どもたちは集団で遊ぶことで、合意形成する力を身につけていきます。しかし、子どもの自由な発想によって、合意形成がなくても遊びが成り立つ場合があります。

「謎のボール遊び」

真冬のプレーパークの夕方近く。ふと見ると、3才児、幼児、小学生、中学生、高校生に大学生、大人と、バラバラな年齢でボール遊びが始まっている。

「パス!」「こっちこっち!」「避ける〜」「当たった〜」

…何度見てもルールがわからない。参加者も入れ替わっているし、チームに分かれているわけでもなさそう。でも、異常に盛り上がっている。とりあえず僕も参加。なんかわからんが面白い。

15分ほどたち、小学4年女子がボールを持ち、「勝った〜!!」の一言で終了。

意味がわからないので、子どもたちに聞いてみる。

A「ボールを持ったら誰かに投げるじゃないの?」

B「そう、なんとなくパスパス言ってるやつが仲間で…」

C「ん?俺とりあえずボール持ったら逃げてたよ。違うの?」

みごとに共通認識が違う。が、なぜかゲームになっていた。

最後、何故小4女子が勝ったのか!?

「えーと、喉かわいてたからね、水飲みたかったから「勝った〜っ」と言って水飲みに行ったの。」

このように、子どもたちはルールがなくても遊べることがあります。これも子どもの持つ力の1つです。